



令和3年10月1日 やまのこひろば

大津市立ひえい平保育園☆大津市立比叡平幼稚園



朝夕は涼しくなり、秋らしく過ごしやすい気候になってきました。子どもたちは、毎日元気に外で身体をいっぱい動かして、運動遊びに取り組んでいます。今の時期は、体を動かすとまだ汗ばむ季節でもあります。汗の始末をていねいにするなど、健康管理に気をつけて、元気に登園できるようにしましょう。また、季節の変わり目は、朝夕の気温差も大きくなります。毎日の気温の変化や活動内容に合わせて、半袖や長袖を上手に調節できるようにしたり、睡眠や朝食をしっかりとするなど規則正しい生活を心がけましょう。園内でも引き続き、新型コロナ感染症対策をしっかりしながら過ごしていきたいと思ひます。

< 10月の保健行事 >	
5日(火)	身体計測 / 0歳児ひよこ組 1歳児うさぎ組・2歳児きりん組
6日(水)	身体計測 / 3歳児そら組
12日(火)	身体計測 / 5歳児にじ組
13日(水)	身体計測 / 4歳児ほし組
22日(金)	後期内科健診 / 保育園児対象

★10月の身体計測

10月の身体計測は全園児、身長・体重・胸囲・頭囲の4計測です。



★視力検査・聴力検査

4歳児(ほし組)は10~11月に、視力・聴力検査を実施予定です。検査の結果は個人にお渡します。



★後期内科健診(保育園児のみ)

園医の〇〇先生に診ていただきます。健診で聞きたいことなどありましたら、職員までお知らせください。



子どもの目 ここが気になる

0~6歳くらいまでの間は目覚しく視力が発達するため、目にとって特に大切な時期になります。でも、小さい子どもは自分では目の異常がわかりません。周りの大人がサインに気づいて、なるべく早く専門医につなげることが重要です。

よく見えていないサインかも?

- 極端に顔を近づける
- 顔を傾けて見る
- 片方または両方の目を細める
- 寄り目になっている
- 目の方向がずれている
- 集中力がなく、飽きっぽい
- 反応が鈍い



★★★★★気をつけたい子どもの弱視★★★★★

視力が育つ途中で、何らかの原因で目を使わない状態が続くと、見たものを脳に伝える回路の成長が未発達のまま止まってしまいます。この状態が「弱視」です。弱視は早く見つけて治療すれば、多くの場合は視力が回復します。気になるときは、早めに眼科へ受診しましょう。

～保健室より～

★最近の園内状況

9月のやまのこひろばでは、寒暖差が大きくなってきたせいもあってか、0~3歳児クラスで、発熱や咳などの風邪症状で欠席されたお子さんがおられました。4~5歳児クラスでは、ほとんどのお子さんが元気に登園することができました。

★9月の保健指導

<ほし組での取り組み> ~ケガとその手当について~

子どもたちの身近におこるケガと、自分でできる手当の仕方についてお話ししました。物や床で打ったりお友だちとぶつかったときなどにおこるケガを『打撲』と言うことを説明し「打撲をしたときに、保健室に行ったらどんな手当をしてもらったか覚えてる?」と聞いてみます。すると「氷で冷やす!」とすぐに答えが返ってきます。次に「園庭でこけた時などにできる『すり傷』をしたときは、どんな手当ををするか知ってる?」と聞くと「絆創膏をはる!」と得意げに答えてくれる子どもたちですが、「でもその前に、みんなができることがあるの知ってる?」と聞くと、少し考え込んでいる様子の子もいます。そこで「転んだときのケガって砂や泥がついて汚れてるよね」とヒントを出すと「ハッ」と気づいて「水で洗う!」と答えてくれました。子どもたちはケガをするとすぐに「絆創膏はって~」と保健室にやってきます。でもお薬や絆創膏の前に「まずは水道の水で傷口をきれいに洗う」ことが一番大切であることを伝えました。次に『鼻血』の手当について問題を出しました。「鼻血が出たときは血が床に落ちないように上を向くか、鼻をつまんで下を向くかどちらがよいでしょうか?」と聞くと半分くらいに答えが分かれました。そこで答え合わせをした後に、なぜそうするのかも説明しました。(答えはほし組さんに聞いてみてください。)最後に大切な約束として、ケガをしたときには、必ずクラスの先生に話してから保健室に来てほしいことを伝えて終わりました。

<にじ組での取り組み> ~『血のはなし』と『かさぶた』について~

にじ組では、去年ほし組のときに話したケガとその手当についてのお話を踏まえて、『血のはなし』と『かさぶた』についてお話ししました。ケガをしたときに血が出るのは、体中に血管という細い管があって、その中を血が流れているからだということを、イラストと模型を使ってお話ししました。その後、ケガをして血が出てきたときの様子を、イラストを見ながらお話ししました。ケガをして皮ふや血管が破れて血が出てきても、しばらくすると血が固まってきて、かさぶたができていく様子や、かさぶたの中でバイキンをやっつける準備をしていたり、新しい皮ふが作られていたり、ケガを治すためにみんなの体の中の力がたくさん働いていることを伝えました。かさぶたは、役目を終えると自然に取れてしまいます。だから、かさぶたが自然に取れるまでは無理にはがしてしまわずに、大切にしたいことを伝えました。ケガが治りかけてくると、かさぶたをめくりたくなくなってしまいますが、かさぶたの役割を知ることで、かさぶたがケガを治すために大切なものであることを意識してもらえたらと思います。